

1. 土木計画学ワンデイセミナー 設立の経緯 ※振り返りスライド

- ・(1)特定研究領域の導入 (2)特定研究成果の普及 (3)特定技術・手法の教育 を目的
- ・比較的少数の受講者に特定テーマに関する専門的な知識を短期間で習得してもらう
- ・セミナー当日の生放送の面白さを企画側と参加者で共有することが最大の特色

2. ワンデイセミナーの傾向 ※添付資料「土木計画学 ワンデイセミナー 一覧表」を参照

・タイトルや内容のキーワード 40 項目

(まちづくり、計画、防災、道路、健康、交通、公共交通、地域交通、物流、地域、参加、ネットワーク、景観、交通安全、土木計画学、社会基盤、政策、移動、鉄道、生活道路、調査、設計、解析、海浜、都市、情報、観光、駅、環境、ITS、高齢者、子ども、子育て、自転車、交通基本法、バリアフリー、航空、国際、ビッグデータ、国土)

・多い分野→交通、物流、防災、地域、解析、ITS、バリアフリー

✓特に研究小委員会の活動をベースにしたテーマは、継続的に開催されている

・少ない分野→港湾、海岸、河川、鉄道、航空、電力、通信、エネルギー、気候、社会

✓土木計画学研究発表会ではセッションがあるが、ワンデイセミナーに登場する頻度が少ない or 無いフィールドやテーマもある

3. ワンデイセミナーに期待されてきたこと

- ・海外手法の導入と展開
- ・モデル、解析手法の講習と社会実装(研究成果のフィールドへの展開)
- ・法律や制度の整備をうけた対応の議論
- ・異分野との連携による多角的な議論、新分野の開拓
- ・政策や実践の比較による展望
- ・計画アプローチの議論

4. ワンデイセミナーにみる計画学のこれから

- ・国土と地域、実証と実践をまんべんなく。
- ・これまで主に取り組まれてきたこと／知見が蓄積されてきたこと
「国土での実証(幹線交通、物流、ビッグデータ解析、モデル解析、など)」
「地域での実践(公共交通、災害調査、バリアフリー、高齢者、子育て、など)」
- ・一方で、以下は今後ニーズが増えるテーマだと思われる
「国土での実践(気候変動、広域災害、などの対応)」
「地域での実証(整備効果、)」